

授業科目	*子ども家庭福祉（3年制コース）					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	必修	開講年次	1	開講時期	前期
担当教員	笠 修彰						
授業概要	近年の生活環境の変容が子どもの生活にどのような影響を与えているのか、また、どのような社会的援助が必要とされているのかなどを理解することを目的に、子ども家庭福祉の歴史や法制度、実施体系、サービスの仕組み、子ども家庭福祉の専門職の役割などを学習する。また、子ども家庭福祉の現状と課題について考察する。						
授業形態	対面授業			授業方法	グループワークやディスカッションを取り入れる		

学生が達成すべき行動目標

標準的レベル	1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と保育との関わりについて説明できる。 2. 子ども家庭福祉の理念とあゆみについて説明できる。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系について説明できる。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題、展望について説明できる。 5. 子ども家庭福祉の実践と従事者の役割、各領域における相談援助活動の役割を説明できる。
理想的レベル	標準レベルに加え、子ども家庭福祉について学習した知識を保育実践でいかに応用できるかを考え出すことができる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	60%	
小テスト	20%	
レポート	20%	
発表（口頭、プレゼンテーション）	0	
レポート外の提出物	0	
その他	0	

カリキュラムマップ（該当DP）・ナンバリング

DP1	○	DP2	-	DP3	○	DP4	-	ナンバリング	CH11104J
学習課題（予習・復習）								1回の目安時間（時間）	
テキスト、配布資料をもとに授業で学んだことを振り返るとともに、授業外で調べたこと等をノートにまとめる。								4	

授業計画

第1回	テーマ：オリエンテーション 子どもを取り巻く環境と子ども家庭福祉の意義について学習する。また、授業概要や授業計画等について把握する。
第2回	テーマ：子どもの人権擁護 子どもの権利と法律、宣言、子どもの人権擁護の取り組みについて学習する。
第3回	テーマ：子ども家庭福祉の成り立ち わが国、諸外国の子ども家庭福祉の成り立ちについて学習する。

第4回	テーマ：子ども家庭福祉の法、行政・実施機関1 子ども家庭福祉の法体系、児童福祉法、その他関連法律について学習する。
第5回	テーマ：子ども家庭福祉の法、行政、実施機関2 子ども家庭福祉の行政組織、児童相談所、福祉事務所、保健所などの関係機関の機能について学習する。
第6回	テーマ：児童福祉施設 児童福祉施設の役割、種類、運営、援助内容と課題について学習する。
第7回	テーマ：社会的養護 社会的養護の意味と動向、社会的養護における援助、社会的養護の課題について学習する。
第8回	テーマ：保育サービス 保育の意味と子育て環境の変化、保育に関する制度・施策について解説する。
第9回	テーマ：障害児支援 障害児を取り巻く現状、障害児支援の背景やポイントについて学習する。
第10回	テーマ：子どもと家庭を取り巻く諸問題1 子ども虐待、ドメスティックバイオレンスの現状と背景、関連制度・施策について学習する。
第11回	テーマ：子どもと家庭を取り巻く諸問題2 貧困、少年非行等の現状と背景、関連制度・施策について学習する。
第12回	テーマ：子育て支援と健全育成 子どもの健全育成、母子保健、子育て支援と健全育成の今後について学習する。
第13回	テーマ：地域における連携・協働とネットワーク 「連携・協働」の必要性、ネットワーク、子ども家庭福祉の推進に向けた「連携・協働」について学習する。
第14回	テーマ：子ども家庭福祉の専門職と専門技術 子ども家庭福祉の専門職種・資格や専門職に求められる知識と技術について学習する。また、本科目における学習内容を振り返り、総括する。
第15回	テーマ：まとめ 本科目における学習内容を振り返り、総括する。
テキスト	波田埜英治・辰巳隆編『新版保育士をめざす人の子ども家庭福祉』(株)みらい 保育福祉小六法編纂委員会編『保育福祉小六法』(株)みらい
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	井村圭壯・相澤譲治著『児童家庭福祉の成立と課題』勁草書房 杣山貴要江著『保育士の専門性と児童家庭福祉』白地社 その他参考図書については、授業のなかで紹介します。
課題に対するフィードバックの方法	・小テストや課題については、次の授業の際にポイントを整理しフィードバックを行う。
学生へのメッセージ・コメント	本科目は、保育と福祉の関連性を理解するうえで大切な科目の一つです。子ども家庭福祉に関する問題や情報に広く関心を持ち、積極的に学び、取り組む姿勢が必要となります。 授業に臨むにあたり、予習、復習を心がけましょう。また、日頃から新聞やニュースなどに親しむことを通して、保育を取り巻く現状に実践的関心を持ちましょう。